

経済・金融 フラッシュ

貿易統計 08 年 12 月

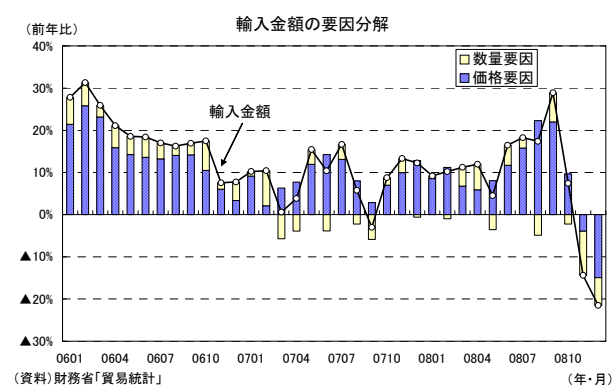
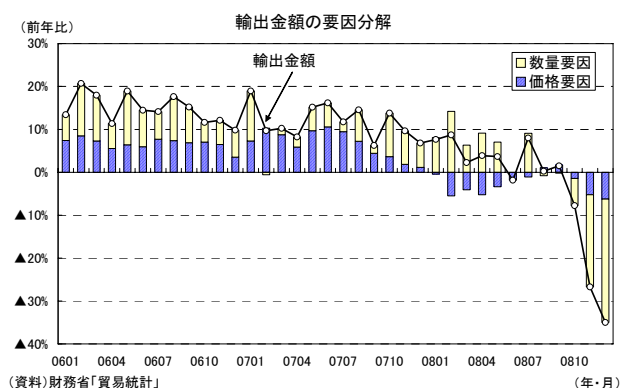
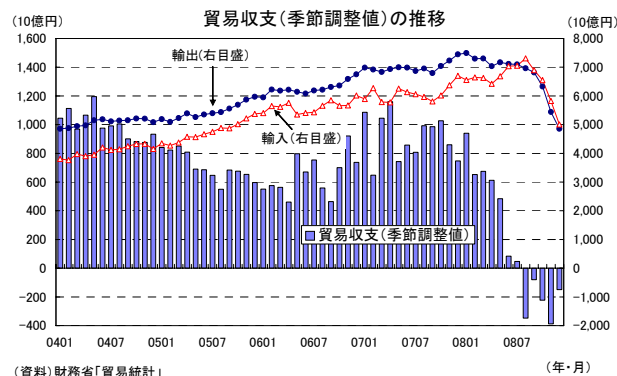
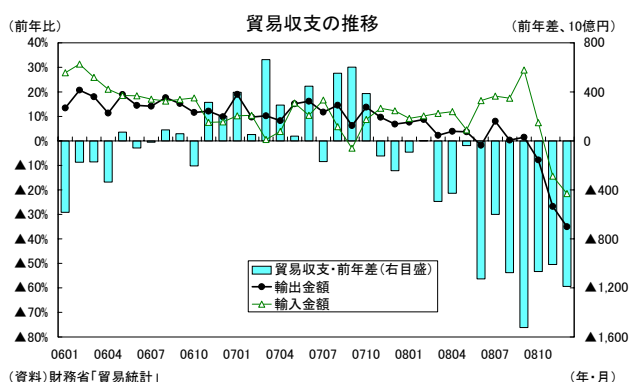
～08 年 10-12 月期の外需寄与度は前期比▲2%
程度の急激な落ち込みに

経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 貿易赤字が継続

財務省が 1 月 22 日に公表した貿易統計によると、08 年 12 月の貿易収支は▲3,207 億円の赤字となり、事前の市場予想（ロイター集計：▲2,780 億円、当社予想は▲2,460 億円）を若干下回る結果となった。輸出入ともに大きく減少したが、輸出の減少幅が前月の前年比▲26.7%から同▲35.0%へとさらに拡大し、3 ヶ月連続で貿易赤字となった。季節調整済の貿易収支は▲1,488 億円と 5 ヶ月連続の赤字となった。



海外経済の急速な悪化が続いていることを反映し、輸出数量が前年比▲29.8%（11 月：同▲22.2%）とマイナス幅を拡大させたことに加え、円高の影響で輸出価格が前年比▲7.3%（11 月：同▲5.9%）となったため、輸出金額は前年比▲35.0%（11 月：同▲26.7%）と前月に続き大幅な

減少となった。

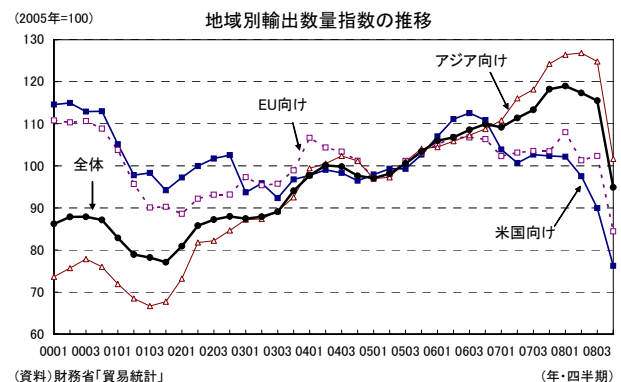
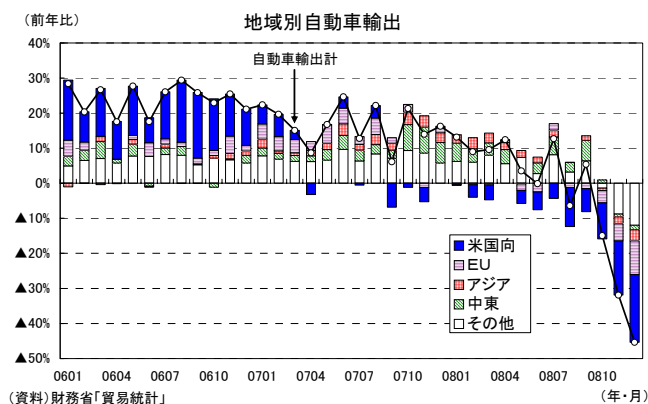
輸入数量は前年比▲7.2%（11月：同▲10.7%）とマイナス幅が縮小したが、円高の進展と原油価格の下落に伴い、輸入価格が前年比▲15.5%（11月：同▲4.1%）と二桁のマイナスとなったため、輸入金額は前年比▲21.5%（11月：同▲14.4%）とマイナス幅が拡大した。

2. 輸出は全ての地域向けに急減

自動車輸出は前年比▲45.4%（11月：同▲31.9%）と減少幅がさらに拡大した。米国向け（前年比▲52.6%）、EU向け（同▲63.4%）がほぼ半減となったほか、アジア向け（同▲39.2%）中東向け（同▲10.2%）、ロシア向け（同▲40.9%）も二桁の減少となった。

12月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比▲31.3%（11月：同▲28.5%）、EU向けが前年比▲29.7%（11月：同▲16.7%）、アジア向けが前年比▲30.6%（11月：同▲21.8%）といずれも30%前後の減少となった。また、当研究所で試算している主要3地域（米国、EU、アジア）以外の「その他地域」向けの輸出も前年比で20%を超えるマイナスとなった。これまでは米国向けの落ち込みが顕著だったが、12月はどの地域を見てもほぼ同程度の急速な落ち込みとなっている。景気の急速な悪化が世界全体に広がっていることを反映したものとえよう。

10-12月期の輸出数量指数を季節調整値（当研究所による試算値）で見ると、米国向けが前期比▲15.3%、EU向けが同▲17.5%、アジア向けが同▲18.6%、全体では同▲17.8%となった（7-9月期は同▲1.6%）。



3. 10-12月期の外需寄与度は過去最大のマイナス幅に

12月までの貿易統計と11月までの国際収支統計の結果を踏まえて、08年10-12月期の実質GDPベースの輸出入を試算すると、輸出は前期比▲13%程度と過去最大の落ち込みとなることが見込まれる。輸入は前期比ほぼ横ばいとなるだろう。外需寄与度は前期比▲2%程度となり、過去最大のマイナス幅（78年10-12月期の前期比▲0.8%、ただし68SNA、1990年基準のGDP統計による）を大きく上回ることが確実と見られる。来週末に公表される12月分の経済統計の結果にもよるが、外需だけで成長率が年率10%近く押し下げられること、個人消費、設備投資などの国内需要も低迷していることからすれば、10-12月期の実質GDP成長率は前期比年率10%を超えるマイナスとなる可能性が高いだろう。

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。